

メディアから福祉の世界へ ~元NHKアナウンサーの挑戦~



現在、内多さんがハウスマネージャーを務められているもみじの家はどんな施設ですか。

重い病気の子どもと家族が最長9泊10日まで滞在できる短期入所施設です。2016年に国立成育医療研究センター（以下、センター）が創設しました。医療的ケアが必要な子どもは今、全国に1万8千人以上いると言われています。

24時間365日続くケアは家族の重い負担です。保育所や幼稚園、学校での受け入れが限定的なこととも少なくありません。この施設では、医療的ケアが必要な子どもたちが同世代の友だちと遊んだり、学んだり、普段はなかなかできないことを経験できます。家族はすべてのケアをスタッフに任せ、自由な時間の中で心身ともに休息することができるようになりました。

私の役割は、マネージャー（管理者）として事業計画を立てることとはもちろんですが、メディアでの経験が活かせる「発信力」にあると思っています。この施設を知っていただくために講演を行った

に伺ったのですが、お母さんに話を伺っている時も家の中を歩き回り、落ち着きがなく、どのように仕事をしているのか不思議でした。そこで、勤務している老人ホームを見学させていただくことにしました。

私の心配をよそに、彼は見事な仕事をこなしていたのです。水へのこだわりが強かったこともあり、お風呂掃除はとて得意で、隅々までビカビカに掃除をしている姿がありました。

もみじの家 ハウスマネージャー
うちだ かつ やす
内多 勝康さん
1963年、東京都生まれ。1986年、アナウンサーとしてNHKに入局。高松、大阪、東京、名古屋、仙台局などに赴任。これまでニュースや情報番組のキャスターを務めるなど、多くの番組に出演。2013年社会福祉士の資格を取得。2016年3月に退職し、国立成育医療研究センターの医療型短期入所施設「もみじの家」ハウスマネージャーに就任。

考えていることが分かりました。さらに、地域で暮らしていくためには、地域の人の助けを借りることが重要だと考えていることも分かりました。家の前を通る人に水をかけたり、近所の家に勝手に入り込んでトイレ掃除をしたりしても、息子を家に閉じ込めることはしませんでした。ご迷惑をおかけした周囲に謝りにまわりながら、「この子には自閉症という障害がなくて、こだわりは強いけれど決して人に危害を加えることはない」ということを知ってもらったことが分かってきたのです。私は、このお母さんの考え方を埋もれさせてはいけないと感じ、さっそく番組を提案し制作しました。私にとっては初めての全国放送のドキュメンタリーとして放送されることになったのです。

反響はいかがでしたか。

この放送が関係者の目に留まり、「これまでにない切り口の番組だった」という良い評価をいただきました。それまでは、自閉症の人のこだわりを軽減するよう指導するというのが多かったようですが、この放送では、こだわりをその人の個性として捉え、社会の方が受け入れる体制を整えること

す。また、深刻なのは、歩ける医療的ケア児の問題です。歩けることは喜ばしいことですが、歩けることで重症心身障害児（※）の定義に当てはまりにくく、結果として施設に入れない、医療的ケアが必要ということで他の施設も利用できないといった狭間に落ちてしまふのです。そうした子どもたちと家族がやっとなことで、もみじの家にとり着くわけです。受け入れる施設がないところでは、家族が24時間、365日見続けなければならないかもしれません。もみじの家のような施設の持続可能な運営のための制度を早急に整備する必要があります。

今後の抱負をお聞かせください。

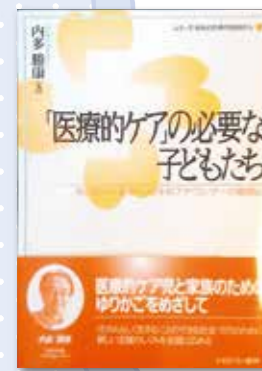
私は、NHKにいた時から、福祉現場で汗を流している方々を尊敬しています。現場の方々には日々十分とは言えない条件の中で、人の幸せを献身的に支えています。私は、その実践に学ばせていただいています。そういう方々の取り組みが、人を、そして社会を支えていると思っています。私も、現場の方々から学んだマインドを受け継げるように、具体的に実行していきたいと思っています。

正直、自分が一番びっくりしています。大学を出るまでは、福祉には全く関心がありませんでした。でも、今振り返ると、NHKに入局してからのいろいろな方々との出会いが伏線になっていたように思います。

NHKアナウンサーから福祉への転身、驚かれましたか。

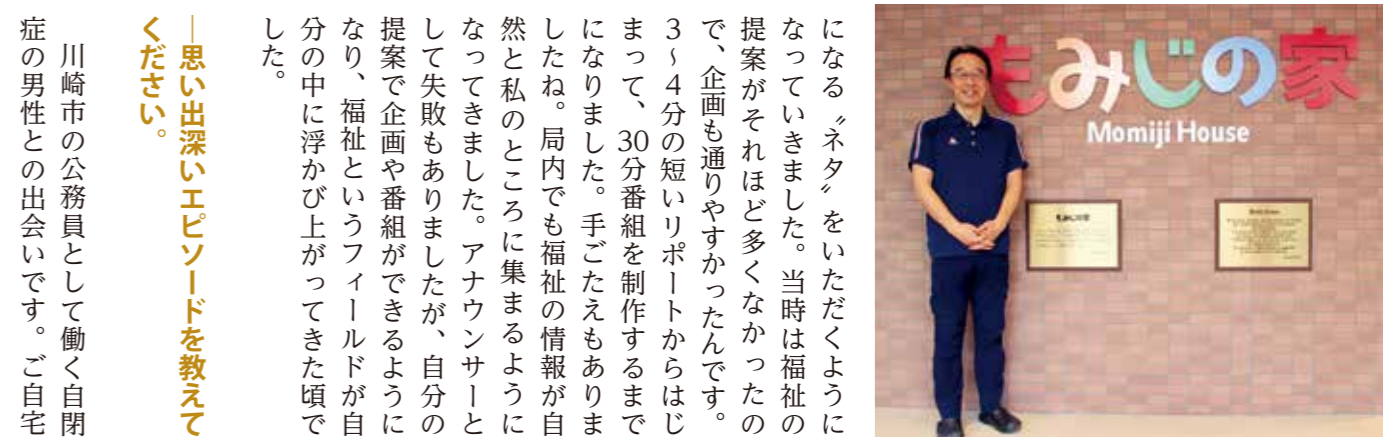
NHKアナウンサーから福祉への転身、驚かれましたか。

ご家族の手記やお子さんの作文なども掲載しています。医療的ケア児と家族の主張コンクールグランプリを受賞した作品を一部抜粋して紹介します。



「医療的ケアがあっても友だちと一緒にいたい！」仲間、ひいきも上下関係もなく、僕を対等に扱ってくれます。相談やケンカもするし、みんなでカラオケにもファミレスにも行きます。仲間は僕に全てを合わせることはしません。同じことができなくても、同じ空間に一緒にいることがいいです。みんなが心配するので、僕は体調が悪い姿をあまり見せたくはありません。そんな仲間たちに、「ありがとう」と言いたいです。最後に「普通の子育て」といって、手のかかる僕を育ててくれる家族に「いつもありがとう」。

「医療的ケア」の必要な子どもたち 第二の人生を歩む元NHKアナウンサーの奮闘記 内多勝康 著 ミネルヴァ書房刊



で、長所に変えることができる。というメッセージになったと思っています。私の仕事のフィールドが福祉に絞られていった大きな出会いです。

この放送を通じて、自閉症の子どもを持つ多くの方が考え方をプラスの方向に変えることができたことを実感しました。そういう放送を大事にしたいと思いました。耳を傾けないと埋もれてしまうような声を集めて、放送を通じて発信していく。福祉の現場は発信すべき情報がたくさんあることに気づかされました。

取材を通して医療的ケアが必要な子どもとその家族の状況を知り、どのように感じましたか。

障害福祉の現場を丹念に取材しているうちに、医療的ケアの問題が徐々に耳に入ってくるようになりました。そして、ある社会福祉法人が在宅医療を行うドクターとチームを組んで、医療的ケア児の日中預かりの施設を作ろうという動きをキャッチしました。また、退院した後も在宅での医療的ケアが必要な子どもが増えている現実を知りました。お母さんたちの取材からは「一日一回は、死にたいと思います」という言葉を聞きショックを受けました。大変な日常を送る

ケアハウスまきば園
行田市白川戸275 ☎048-555-2202
笑顔が自慢のまきば園で、安心して生活を渡りませんか？
ご夫婦のご入居もお待ちしております！

高齢者総合ケア施設
まきば園
☎048-555-2202 行田市白川戸275

元氣な挨拶と明るい笑顔！
鴻巣まきば園
☎048-547-2202 鴻巣市前砂517-1

全室個室・ユニットケアの新型特養
岩槻まきば園
☎048-797-2202 さいたま市岩槻区橋本1376

開放感あふれる鮮やかなケア施設
武里まきば園
☎048-739-2202 春日部市武里中野705

福祉の街ネットワーク

北部エリア
●ふくしのまち商店
●加納野庭園
●デイサービス新橋南
●ふくしのまち交流
●デイサービス松伏
●ふくしのまち保育園
●レンタルスペース

中部・中央エリア
●ふくしのまち商店
●レンタルスペース
●ふくしのまち商店
●レンタルスペース
●ふくしのまち商店
●レンタルスペース
●ふくしのまち商店
●レンタルスペース
●グループホーム大塚
●小規模多機能大塚
●ふくしのまち商店
●レンタルスペース
●グループホーム大塚
●グループホーム大塚

南部エリア
●ふくしのまち商店
●レンタルスペース
●グループホーム大塚
●グループホーム大塚

株式会社 **福祉の街** ☎048-645-2943
https://www.youism.jp
さいたま市大宮区桜木町1-12-5 沢田ビル4F